

新しい年も立春を迎えました。

皆様へのご挨拶が遅くなりました・・・本年もよろしくお願ひ申し上げます。皆様にとりましてご健康でよい年となりますよう白馬よりお祈り申し上げます。

コロナ禍に関して我慢の一年を終えたという感慨をもって先に進みたいところでしたが、ますますの感染拡大、さてこれから先、何時、どのように安心の明かりが見えるのか・・・皆それぞれに困難や不安とともに過ごしのことと思ひます。

白馬村のコロナ感染拡大状況についてもご心配の声をいただいております。それについては後述するとして・・・気持ちを前向きにする一助になりそうな言葉に触れてみたいと思ひます。

★本年令和 3 年は十二支の『**丑年**』、丑年はどのような年か調べてみました。沢山の解説はあるものの【「我慢(耐える)」や「**発展の前触れ(芽がでる)**」を表す年になるといわれています。】これを採用してみます。

★年未年始は大雪でした。別荘の方から届いた新年の LINE に、「大雪で大変ですね・・・」と返信したところ、心に届く言葉をいただきました。中国の寒い地方ご出身のその方から『中国語で**瑞雪兆豊年**という言葉があり、年未年始の大雪は豊かな一年になるという事を表すという意味です。』と。確かに山には水が豊かに蓄わえられるでしょうし、季節の巡りもはっきりとしたものになるでしょう。今ゆえにこの言葉からは、それだけでなく、もう少し深い意味を得たようにも感じます。遠い昔に置き去りにしてある墨や筆で『瑞雪兆豊年』と書初めをしてみたい気持ち。

★そして、「**冬来たりなば春遠からじ**」個人的にこの言葉に励まされることはありましたが、今や日本ひいては世界中がこの言葉のような思いを共有せざるを得ないように思ひます。希望を見出して歩みを進めるためのシンプルにしてよい言葉だと感じます。

漢文や古文に基づいた故事成語風ですが、イギリスの詩人シェリーの「西風に寄せる歌」の一節「If winter comes, can spring be far behind?」に基づきます。

みそら野別荘地の今

12 月半ば過ぎから順調な降雪に恵まれ、白馬らしいホワイトクリスマス、スキー場も順次フルオープン、数年来続いた海外からのお客様による賑わいはないものの、別荘の方をはじめとして国内からの白馬來訪者による控えめながらもそれなりの賑わいを感じさせる年未年始を迎えつつありました、が、しかし、数十年に一度クラスの強烈寒波襲来。大晦日も元旦も雪との格闘を強いられることになり、続く数日間目は目の前の雪とそれに派生する諸々と対峙。それと並行して、新型コロナは感染拡大。再度の緊急事態宣言発令、長野県独自の特別警報も発令。昨年との違いは、長野県とりわけ白馬村そのものも新型コロナ感染拡大の渦中にあるということです。

白色に染まった別荘地。雪が降りやみ晴れ間が覗いた瞬間などと言ったら、雪・青空・雪をまとった木々・動物の気配・・・ただただその美しさに心配事も疲れも午後の仕事の段取りさえ一瞬忘れて佇んでしまいます。

管理担当チームは、道路除雪・個別の除雪・全体のパトロール・入居時のサポート・退去点検・・・一回目の屋根雪下ろし・・・コロナ禍により入居できない別荘への対応・・・席を温める間もなく稼働。

みそら野別荘地内、かつての例年並みの積雪、山寄の奥で 1,3m 国道寄りで 1,0mほどの積雪となっています。



白馬村の今

新型コロナウイルスの感染者増が止まらず、長野県独自の感染警戒により、白馬村は最高のレベル 5 となり、平川～松川に挟まれた白馬駅を中心とする地域の飲食業には、時短・休業要請が出ました。国道周辺だけでなくも八方、和田の、エコーランド、みそら野等を含みます。状況は刻々と変わらるでしょう、このお便りが皆様のお手元に届くころには状況も違うと思ひますがそこはご容赦ください。

白馬村のコロナ感染場所は、見えているものに限れば、スキー場関係が多いようです。白馬村のすべてのスキー場とその関係先で感染者。飲食を含め大掛かりな PCR 検査も行われていますので暫くは感染者数が増える懸念があります。お客様もバイトも都市部に頼る構造上、行政も事業者も個人も、簡単にはでない答えを模索しています。

久々の大雪に学ぶ

12月半ばの上越国境付近、そして1月初冬の北陸を中心とした災害級の豪雪、日本列島丸ごと温室そして超雪不足だった昨冬に比し、今冬はのっけからガツンと自然の厳しさにやられました。年末年始とその後数日は、白馬でも雪が降り続き、未明から道路除雪、駐車場等の除雪が続きました。急に大量の積雪となったため、屋根雪の問題、大量の雪が圧着したために耐え切れず倒れる樹木・・久しぶりに複数個所で雪害が発生しました。大規模停電が起きなかった事に感謝。

予てより、数年に一度は「みそら野だより」で触れてきた伸びすぎたアカ松やカラ松について、今一度問題を共有させていただこうと思います。

みそら野別荘地では、中間地点より東(国道より)は、殊の外アカ松が多く生えています。アカ松は生育スピードが早く、天へ向けて起立したアカ松が目につきます。樹木に覆われてこそ「みそら野別荘地」「皆で樹木を大切に残していきましょう・・」と繰り返しお願いする同じ口で、「アカ松、カラ松は暴風や積雪時に倒木被害の元凶となりやすいので特に伸びすぎたアカ松の弱さからみて、危険回避のためにも伐採をお願いします!!」と声に出します。実際に被害が生じた場合はもちろんのこと、被害が想定されると目視できた場合は、伐採を手配しますのでご了解ください。所有者の方に連絡をしてご了解いただく努力をしておりますが、連絡がつかない場合は、先行して伐採せざるを得ませんので、どうかご理解をお願い致します。できるだけ安く済む方法を取りますが、費用のご負担はお願いすることになります。夏の間に、明らかな危険木については、伐採のお声がけをしていますが、何もなければ真っすぐに生えているようにみえていて暴風や積雪によって急激に傾く場合もあり、管理事務所として危険回避への予測と努力には限界があります。

夫々の所有者の方に周囲や電線への危険がない時点で敷地内のアカ松伐採のお願いをしてご負担いただくには限界があるのも事実です。また、弊社がみそら野別荘地の一定の高さ以上のアカ松伐採を大掛かりに行うとしたら莫大な費用がかかるため現実的ではありません。村や県、部分的には電力会社等も含めたコラボで、支障木、危険木の伐採を行う取り組みができないものかと、数年来の懸案であり、動いていますが・・・里山整備事業には該当せず・・松くい虫についても「事前回避」という概念の事業はなく、今のところハードルは高いと感じています。他府県でお仕事上、経験上、これらに似たような事柄のお知恵をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお聞かせください。



閑話休題

「木のとももち(共持ち)」について地元の樵から教わったことがあります。読んで字のごとく、樹木は互いに根や枝で寄り添いあってバランスを保ち真っすぐに存在できる・・・周囲の樹木が切られてしまうと、一本きりでは助け合うものがなく弱い存在となる・・・傾倒や倒木も起きる。木を切る時は大きく見ませ! と。みそら野別荘地における最近の急激な傾倒や倒木は、成長しすぎた樹木の弱さだけでなく、幾ばくかはこの「木のとももち」に起因するようになってきています。それぞれにすくっと起立しているように見えても、近隣の樹木と支えあってこそ共に持つ = 木のとももち。

「仲間と一緒にあってみればいいが、一本立ちでみれば、つらい事です。・・・樹木と同じですよ」結城真一が「山毛櫨(ぶな)」の最後に主人公に語らせた言葉に重なりました。人も樹も似ている。

みそら野かわらばん

下草の伐採

ご所有地の下草をきれいにしてみませんか？ 害獣対策で急遽下草刈りを行ったり、売り物件にする際にイメージアップと境界を見やすくするために下草刈りをしてみたところ、整然とした美しい別荘地の印象となりました。

下草を含めて自然のままがよいというご意見もありますが、下草刈りにご興味のある方はご連絡ください。

あしたは晴れます様に

(^^^)

平川左岸の保安林伐採

昨年、平川左岸(みそら野側)の河川敷の樹木が県の事業として伐採されました。河原を好み、繁殖力の強いニセアカシアが鬱蒼と繁ってきていましたが、源太郎ダムから姫川まで総距離3キロ余、すっかり明るく広々と変貌。熊の通り道、隠れ家としての心配はなくなりました。

春になったらお散歩してみてください(^^)/

建物の火災保険について

建物をご所有の方は、夫々に火災保険を掛けていらっしゃると思います。気候の変動が激しく、極端な気象状況も多くなってきましたので、風水雪害等の災害も網羅した火災保険をかけておかれることを推奨します。長野銀行の関連保険会社と提携しましたので、災害対応まで網羅した火災保険のご案内も管理事務所にて行うことができるようになりました。

妄想のイベント計画

平成 29 年から管理事務所主催のイベントを2年間にわたり年数回開催しました。手探りで始めたプチイベントではありますが、別荘の皆様が興味を持って参加していただける、そしてひとときの語らいを楽しんでいただけることを目指して～ますます充実させていこうという矢先の昨年のコロナ禍、今年も開催できるかどうか見えてきませんが、様々な構想はあります。構想はエスカレート気味に妄想へ昇華。いくつか妄想の欠片を・・・

- ★三月に平川河畔をスノーシューで散策、動物にも出会えるといいな、歩き終わりには外で豚汁でも如何？
- ★鹿島槍のカクネ里氷河探訪の続編として、地元唐松岳、唐松沢の氷河認定記念見学&学習会、吉田先生のスタンバイはきっと大丈夫!!
- ★みそら野別荘地の土地と気候に合った植樹、植栽についてプロに話を聞こう。自分で植えてみよう。
- ★一人で山へ行くには少し不安、顔のわかる管理事務所のガイドで八方池やもう少し先へ行ってみようの会
- ★管理事務所には本物の猟師がいます。「マタギの話を聞く会」「ジビエ料理講習会」
- ★晩秋には別荘地で集めた落ち葉で消防の許可も取って「焼き芋の会」(^^♪

白馬・みそら野不動産状況

2020(令和2)年の後半の不動産の動きについて・・・

新型コロナウイルスの感染の収束の見込みはたまた、GO TO トラベルとやらで人の動きはある程度喚起されたものの、観光と不動産は等式というほど単純ではないし、海外との観光を目的とした往来は閉じたまま・・・挙句、日本の財政～経済そのものに余力がなくなっている、白馬への不動産(投資)の風向きは変わるだろう、どのような風が吹くのか、その中でみそら野別荘地の不動産状況は??? 折角みそら野別荘地の名が国内外で認知されてきたのに・・・とはいえ、これも世の常、不動産の常、私自身はわりとクールに何が来ても受け止めて対応していこうと覚悟していたところ、残り少なくなってきたみそら野別荘地の売り物件がしっかり動いています。

貸別荘を目的またはプライベートと貸別荘を兼ねた購入が7割前後を占めていた前年までと違って、年齢層に関係なく、完全なプライベート別荘目的の方が増えました。「新型コロナで地方回帰」という話題も見聞きする昨今、短絡的にそれがすべてとも思いませんが、「地方・自然・家族」目的とするものの先順位が入れ替わったようにも感じています。管理事務所の不動産部の立ち位置とポリシーは、みそら野別荘地にご縁を持ってくださる方々の年齢・性別・国籍・職業・目的に関係なく、「白馬三山の麓にあるみそら野別荘地で人生の中の良い時間を紡いでくださること」に尽きます。私達の不動産売買と不動産管理業務もそのために・・・あります。

白馬村全体を見渡しても不動産の動きは鈍っていないようです。同業仲間と顔を合わせての会議ができるようになり次第、「白馬不動産状況分析と今後の展望と予測と準備について」話す機会を持つ予定です。

雑記帳

昨年夏号「書いてはいけないかもしれない話」で触れた仙人と見紛う御仁との出会いの続きの話・・・何度も同行した担当司法書士と顔を合わせると、どちらからともなく「あの仙人はどうしてるかなぁ」「もしかして・・・今あの家を訪ねてもそこには何もなくて・・・🌀」「違う世界だったのかな??」などと話すことがあります。それほど、強烈な印象を残す出来事、出会いだっただけです。実は仙人の住まいは北陸地方の山裾に広がる田園地帯にあったのですが、先の北陸地方の豪雪のニュースに触れた時、「あの仙人は大丈夫かな? 家屋敷は雪に埋もれてしまったかな? 雪かきの道具持っているよね?? 肌寒い3月でさえ靴下履いてなかった・・・素足に草履だった・・・靴下履いているかな、黒い長靴が玄関隅においてあったけれど、あれじゃあしもやけできそうだな・・・仙人だから雪でも寒くても大丈夫かな??」一期一会的な出会いで後々これほど気にかかることは稀です。北陸で出会った仙人かもしれない老人の存在と安寧をいまでも願っています。すっごく振り回されたのに・・・不思議。

話の展開として・・・10年以上前、同じく高齢の売主さんのご自宅を訪ねた時の思い出をお話ししましょう。春日大社の近くの伊賀街道、緩い石畳の坂道、街道(道)そのものに風情がありました。街道沿いの建物は間口はそれほど広くないものの奥へ続く長い土間とあがり、丁寧にしつらえられた中庭の奥の部屋にいらした上品な老紳士、時代を経てきたことを感じさせる品の良い調度品、穏やかな語り口、この時もまた時空を超えたような感覚を覚えました。ひよんなことから昨年末、この老紳士のご親戚の方とみそら野別荘地の縁でお話する機会があり、90代半ばを越えてなお今もお元気でお過ごしと伺い、とても嬉しくなりました。



令和三年度の管理費のご請求時期が近づいてまいりました。お振込みの方と口座引き落としの方、それぞれに3/1付で発送させていただきます。厳しい世情ではございますが何卒宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスが収束へ向かいますように。皆様のご健康でお過ごしになられます様に。
白馬でお待ちしております(^^♪